白鷹町歴史民俗資料館 あゆみしる

1年間の活動（年報）

令和４年度(2022.4～2023.3)　　第１号

発行　2023.5

【目　次】

１．はじめに	１ページ
２．開館までの経緯	2
３．企画展示・ワークショップ・連動企画	3
４．昔の稲作事業	6
５．入館者数	7
６．施設活用事例	8
７．アンケート結果	9
８．施設概要	11

1. はじめに

当館は白鷹町の歴史・文化に関わる学習、調査・発信、保存・伝承を担い、町内外と広く交流する機関として令和３年にプレオープン、４年にグランドオープンをしました。４年度から企画展を開催してようやく資料館としての機能を発揮し始めたこの機会に年報を作り、広くあゆみしるの活動をお伝えします。

館　　長　　橋　本　秀　和

2. 開館までの経緯

町歴史民俗資料は遊休施設となった旧十王地区コミュニティセンター（昭和 57 年建築）を改築して建設された。

昭和 55 年頃　資料館建設の機運が高まり、民具収集が行われた。

昭和 62 年　郷土資料調査委員会　調査活動報告書発行するが活動停止。

平成 10 年　図書館などの複合文化施設の建設（現町文化交流センターあゆーむ）に際して、郷土資料室を設けるよう検討。

平成 24 年　閉園するこぐわ保育園を郷土資料館として活用するよう検討。

令和元年　旧十王地区コミュニティセンターを活用した白鷹町郷土資料館整備事業が始まる。民具が保管されていた旧中山小学校体育館にて、以前作られた民具台帳と民具の照合作業を開始。現存物の内容、点数などを確認。





令和 2 年　旧十王コミセン改修。道向かいに保管倉庫を新たに建設。

令和 3 年　旧中山小学校体育館から民具移動。
館名を白鷹町歴史民俗資料館とした。
愛称を一般募集し、「あゆみしる」に決定（応募者：荒川一美さん）。

7 月 23 日　プレオープン。
常設展示室を設け、町の江戸時代末頃から昭和、現在に至るまでの仕事をテーマにした展示を行う。稲作や養蚕、藩政時代の主要作物である紅花・青苧、現在も続く深山和紙やなどを紹介する。

令和 4 年　4 月 2 日　グランドオープン。企画展示を開催。

あゆみしる
白鷹町歴史民俗資料館



館のロゴマーク（右）
あゆみしる外観（左）

3. 企画展示・ワークショップ・連動企画

企画展は 3 回、ワークショップ 2 回、連動企画 1 回を行った。なお、開館日は予約がない限り金・土・日曜日の週 3 日である。

【企画展示】

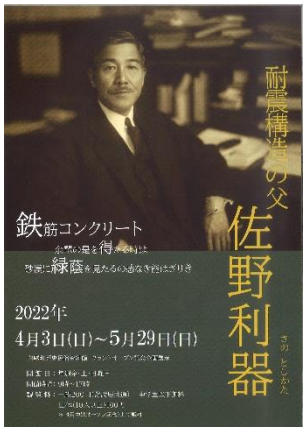
◆耐震構造の父　佐野利器

4 月 3 日～5 月 29 日（25 日間）

白鷹町出身の建築家、佐野利器（さの としかた、1880～1956 年）の遺品を展示し、その後収蔵した。

展示では、佐野の手帳（1946～1955 年）や晩年の賞状などから、世界に先駆けた耐震建築の研究成果やメートル法やローマ字の普及、教育法の改善など幅広い分野での活躍を紹介した。

一方、母・兄や孫宛の葉書では、明治 39 年（1906）、東京帝国大学（東京大学工学部）の助教授となった利器がカルフォルニア州の大地震を視察した折りや 44 年のドイツ留学地からの絵葉書から現地の様子を伝えている。孫の晴男（父は建築家の中田亮吉、母は次女の千代子）には、すべて平仮名でクマなどのイラストを描いた優しい口調の葉書を送っている。強靭な意志で建築界、帝都復興を進めてきた「佐野鉄」とはまた別の家族にむけた柔らかな一面を見ることができた。







明治 39、40 年代の葉書



賞状・還暦祝賀会案内状など



手帳

◆民具の音をきこう

7 月 8 日～10 月 2 日（42 日間）

本展示は、①民具の稼働音を聞くこと、②子ども達が遊びながら民具に親しめるような展示の 2 点を目的に企画した。民具の魅力を発揮できる稼働時を見てもらえるよう、紡器や薬研、箕、サイレン、黒電話など動かせるように調整して展示した。また、民具の音を収録して音楽を作り、展示室と Youtube で公開





した。楽曲制作には民俗音楽に造詣の深いサカキマンゴー氏（親指ピアノ奏者）、映像撮影には田岡知暁氏（朝日町地域おこし協力隊）に依頼した。資料館でも珍しい、挑戦的な展示を行った。

結果、子どもの来館者は非常に少なく、高齢者層が多く来館して楽しんでもらえた。子どもを対象とするには、ただ遊べるだけではなく親世代の関心も引けるような更なる工夫が必要であった。

展示品：稲、箕、マブシ折り器、糸車、紡器、石臼、薬研、
　　鳴り子、拍子木、手動サイレン、黒電話、民具の音楽「夜のあゆみしる」
民具の音楽関連品：繭袋（長井市郡是）、食器棚、親指ピアノ、音楽制作の様子（映像）


展示室内


マブシ折器


民具の音楽 展示

◆粒粒辛苦(りゅうりゅうしんく)～時には幸福～

12 月 9 日～3 月 12 日（40 日間）

餅を食べる年始に合わせて、米をテーマにした展示を行った。うるち米ともち米の違いや、機械がない頃の米の選別、精米作業について民具を動かしながら紹介し、白米になるまでの手間の多さや選別する民具の巧妙さを体験してもらう。また、祝いの日と葬儀の際に食べた餅や赤飯について、当地の古文書から紹介した。





展示品：米を観察するデジタル顕微鏡、杵・臼（籾摺り体験）、万石通（体験）、唐箕（体験）、瓶・玄米（精米体験）、米びつ、ワラカゴ、丸せいろ、角せいろ、羽釜、正月飾り、「御産ニ付御祝申請帳」（個人蔵）、「義覚院真源良徹居士香料申受帳」（個人蔵）、「信應定念居士香典申受帳」（個人蔵）、「温室貞光第姉御見舞申受帳」（個人蔵）、「米通帳」、ふかし缶、「かてもの」


展示室内


万石通（体験）


葬式の帳簿（ダミ帳）

【ワークショップ】

◆縄ないワークショップ

講師　小形文夫氏、小形善明氏（浅立）

あゆみしるで育てた稲ワラを使ったワークショップ。草履づくりなど時間のかかるワークショップでは省略されがちなワラすぐり（稲のはかまを取る）、ワラぶち（ワラをワラヅチで叩いて柔らかくする）という下準備から作業を始めた。参加者の上達速度が早く、想定よりも長い縄を編むことができ、十分に満足できる内容となった。

使用民具：ワラ打ち

1 月 28 日（土）10：00～12：00　参加者 5 名（町内）

2 月 12 日（日）10：00～12：00　参加者 3 名（町内・長井市）



わらすぐり（ハカマ取り）



わらぶち



綯い方を教わる

【連動企画】

◆サカキマンゴーライブ with 民具

あゆみしるの民具を使った音楽制作を手がけたサカキマンゴー氏のライブに民具が登場し、アフリカの音楽や親指ピアノと共演した。

突如鳴り響く黒電話と織物の職人が登場してセッションする様子は、特に観客を驚かせ今までに無い音楽を体感することができた。資料としての民具ではなく、動き、主張する新たな一面を紹介することができた。また、コロナ禍でのイベントとして約 100 名の集客は大きな成果だといえよう。

日　　時：令和 4 年 7 月 23 日（土）　開場 14：30　開演 15：00

主　　催：山ホド　　協　　力：白鷹町歴史民俗資料館あゆみしる

会　　場：白鷹町文化交流センターあゆーむ

来場者数：98 名



ライブ会場



黒電話で歌う



機織り機とのセッション

◆Youtube 掲載

サカキマンゴー氏による楽曲「夜のあゆみしる」に加え、楽曲制作やライブの様子を伝えた 4 本の動画を掲載した。







Youtube 動画サムネイル





「夜のあゆみしる」動画一部

4. 昔の稲作体験

米は江戸時代より経済的に必要不可欠なものであり、稲ワラは蓑や草鞋、縄などの生活用品の原料として用いられた。稲作が生活の中心にあったこと、ワラがあれば実験可能なことが多いため当館で令和 3、4 年度と稲作を行った。3 年度は試作として育てやすいヒメノモチを、4 年度はワラ細工に適した丈の長い彦太郎糯とこがねもちを植えた。

	3 年度	4 年度
広さ（地区名）	5a（山口区）	7a（山口区）
品種	ヒメノモチ	彦太郎糯（ひこたろうもち） こがねもち
イベント	田植、稲刈り、脱穀、餅つき	田植、稲刈り、脱穀、餅つき

使用民具：田植枠、稲刈り鎌、千歯扱き、足踏み脱穀機、ふるい、唐箕、箕



田植え



稲刈り



足踏み脱穀機を使った脱穀

5. 入館者数

令和３年度

＊企画展示なし。常設展示のみ。

総　　数　　908 名

月	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人数	159	58	105	142	71	322	9	26	16

7 月 23 日～8 月 1 日は無料期間。

令和４年度

総　　数　　853 名

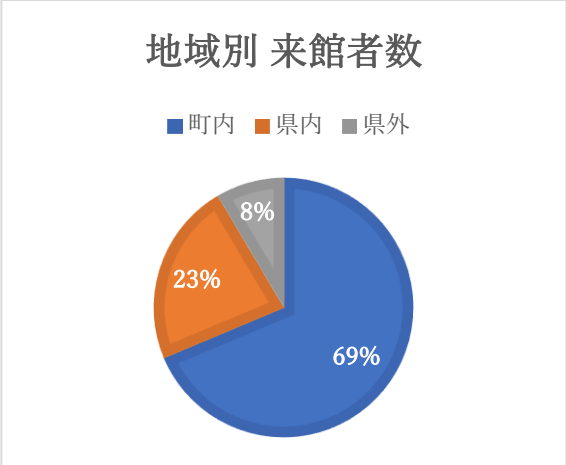
開館日数　　165 日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12
人数	160	129	42	82	40	93	65	122	52

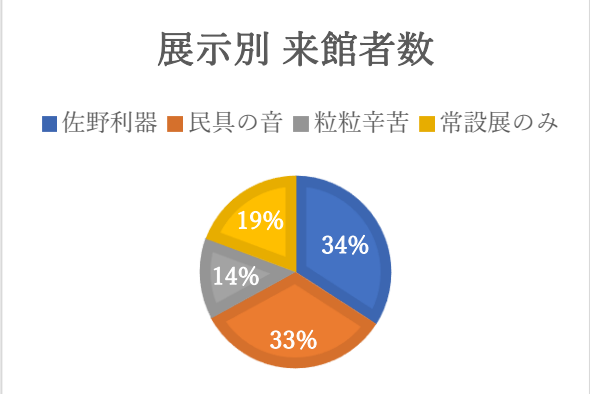
月	1	2	3
人数	18	28	17

＊灰色のマスは企画展会期

	地域別来館者数
町内	541
県内	180
県外	67



	展示別来館者数
佐野利器	289
民具の音	280
粒粒辛苦	115
常設展のみ	164



6. 施設活用事例

◆入館団体

令和 3 年度

町内	一般	朝日・白鷹両町協議会、白鷹町手をつなぐ育成会、しらたか旅先案内人、十王地区コミュニティセンター
	教育施設	鮎貝小学校、東根小学校、荒砥小学校（全校生徒）、蚕桑小学校、愛真こども園、よつばこども園
県内	一般	置賜地方町議会正副町議会、西置賜行政相談委員協議会、県庁市町村課財政係、豊田コミュニティセンター
	教育施設	米沢市立三沢西部小学校、長井めぐみ幼稚園、東北芸術工科大学文化財保存修復学科

令和 4 年度

町内	一般	中山地区公民館事業、高玉地区サロン、浅立ふれあいサロン、鮎貝語り部の会、白鷹町教員初任者研修会、白鷹町女性の会、荒砥小学校放課後子ども教室、蚕桑放課後子ども教室
	教育施設	よつばこども園、愛真こども園、蚕桑小学校、荒砥高等学校
県内	一般	とみひろ寒河江支店、上山市西郷地区公民館、高畠町文化財保護会、和合の里をつくる会、小国町文化財調査委員会
県外	教育施設	東京外語大学山形スタディツアー

当館見学の際、特に児童の見学では、学習目的や興味のある項目を事前に伝えてもらい、目的に合った展示解説を行っている。常設展示品に不足がある場合は、保管倉庫の民具を展示やデジタル顕微鏡を用いるなど、学習を深める工夫を行っている。

例　東根小学校：深山和紙研究センター見学前に当館に寄り、和紙の繊維をデジタル顕微鏡で観察した。

蚕桑小学校：養蚕の授業があり、飼育前に歴史や蚕の特徴について学んだ。

十王地区コミュニティセンター：放課後子ども教室という小学生を対象とした事業にて、館内を宝探しのように見学できる小冊子を制作した。

蚕桑地区コミュニティセンター：放課後子ども教室にて、当館で民具および笠松山経塚などの発掘品を見学した後に、経塚の発掘場所（現パレス松風）を見学した。

◆資料貸出

令和 3 年度

町内	えふで会（絵画教室）
町外	米沢市立三沢西部小学校

令和 4 年度

町外	米沢市立三沢西部小学校、西川町立自然博物館・自然と匠の伝承館、個人（朝日町）

◆関係する論文･出版物

令和 2 年

「山形県白鷹町所有民具の整理作業について」守谷英一・石井紀子『民具マンスリー』第 53 巻 11 号、神奈川大学日本常民文化研究所。

令和 3 年

「山形県西置賜郡白鷹町の「半唐箕」」守谷英一『民具マンスリー』第 54 巻 3 号。

「民具などの史料の保存・展示について」石井紀子『置賜の民俗』第 28 号、置賜民俗学会。

令和 4 年

「半唐箕のこと－山形県白鷹町歴史民俗資料館所蔵の半唐箕をきっかけとして－」守谷英一『民具研究』164 号、日本民具学会。

「土葬で使う龕について－白鷹町横田尻の「お棺」－」石井紀子『置賜の民俗』第 29 号。

卒業論文「龕について－白鷹町横田尻笠松の龕を題材に－」東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科　馬場達也。

7. アンケート結果

◆館全体

・初めて来館しました。機織りも初めて体験させてもらい実際に触れることができて楽しかったです。今度は子供を連れて体験させたいです。
・町の産業が分かりやすくまとめられていて大変勉強になるので、一緒に来た親戚も楽しみながら町の歴史を学べたようでした。ありがとうございました。
・常設展示、企画展示どちらも大変興味深い内容で、また何度も見たいと思いました。
・説明がわかりやすかった。
・常設展示は小学生の時を思い出すものが多かった。

◆企画展

耐震構造の父　佐野利器展

・佐野利器展を見ました。大変良かったです。特に孫に係る作文はおもしろいですね。私の係わった仕事がらですが鉄筋コンクリートの論文を見たかった。
・素晴らしい施設でびっくりしています。尊敬する佐野さんの企画展もすばらしい！次回の企画展

期待しております。
・今回の企画展、先人の偉業をもっと子供たちにも伝えたいと思いました。今後ともよろしくお願いします。
・ワークショップなど子供たちにも体験させたいです。
・佐野利器先生はまだまだ知られていてもいい存在である。辰野金吾さんの下にいたのは知っていたが東京駅の設計（構造）にも参加していたのは知らなかった。
・全く知らない白鷹の偉人の存在と歴史を知れて良かったです。想像以上の偉業が並んでいて驚きました。

民具の音をきこう展

展示

・民具を実際に使ってみると、想像以上に豊かな音が出て、楽しかったです。民具と楽器の企画も楽しみです。
・実際に触れることができるのがとても良い。道具として認識し生活に思いを魅せられる。子供向けと大人向けにキャプションを分けているのも見やすくて良いと思った。
・農具を触って体験できることは貴重でそして楽しかったです。
・体験できるのがとても良いと思いました。知り合いのお子さんにも進めてみます。
・サカキマンゴーさん製作の「夜のあゆみしる」を聴きに来ました。色んな民具の音が組み合わさって大変楽しく心地よくきかせていただきました。大満足です。
・

ライブ

・機織り機とアフリカ音楽のコラボが楽しかったです。
・想像できない組み合わせから生まれた音が音楽になっていて、素敵な時間でした。
・舞台の演出が良かった。スポットライトに民具、かっこいい。機織り機とのコラボもすごくよかった。織子さんに拍手。
・機織り機との共演とても感動しました。使っていた当時の人々の生き生きした感じが浮かんでとても面白かったです。またこういうイベント期待します。ありがとうございました
・イメージしていたより民具の出番が少なかったのが少し残念。
・もう 1、2 曲、民具の音楽があればよかった。

粒々辛苦～時には幸福～展

・懐かしい民具が沢山でていてよかった。
・万石通や唐箕が実際に動いているのは初めて見た。

8. 施設概要

◆資料館

構造：木造平屋建て

床面積：1 階　370.38 ㎡

　　2 階　111.30 ㎡

　　地階　16.34 ㎡

　　計　498.02 ㎡



＊館内パンフレットより

常設展示室：農耕、収穫、運搬、養蚕、窯業、紅花、青苧、和紙などの道具を展示

企画展示室：企画展やワークショップなどで使用

古文書保管室：常設展示室 2 階。古文書や地域史に欠かせない図書資料を保管しています。

◆保管倉庫

構造：木造 2 階建て

床面積：1 階　203.36 ㎡

　　2 階　182.78 ㎡

　　計　386.16 ㎡

　資料館の道向かいにある資料保管用の建物です。

　1 階に農耕用具・大型民具と絵画、2 階に養蚕・機織りの道具、畜産、林業、生活に関わる道具を収蔵しています。

　保管倉庫の見学は事務室にお声がけください。

